

◆ 離床領域

「一般市民を巻き込んだ離床」

曷川 元（日本離床学会）

皆さん、こんにちは！

日本離床学会、会長の曷川です。

プレミアム会員の皆さんに向け、  
「面白い情報を書いて欲しい」と依頼を受けたので、  
これは！という内容を厳選してお贈りします。

今回は、  
一般市民を巻き込んだ離床、です。

当学会には一般市民ファシリテーターがおり、  
教育素材の提供や、啓発セミナーを各地で開くための、  
システムを提供しています。

それとは、また異なるアプローチが、  
イギリスの離床ネットワークメンバーから届きました。

4つのパートからなる、  
退院した患者さん向けのサポートシステムを構築したということです。

まず、1）退院後の健康状態を把握し、  
次に、2）それに合わせた身体活動プログラムを処方、  
さらには、3）心理的なサポートを行い、  
4）患者さん同士のコミュニティーを作りました。

患者さんの状態を把握して、運動を行うことは、  
どこでも行われていますが、  
このシステムの素晴らしい所は、  
患者さんの家族も巻き込み、  
さらには患者さん同士の関係も持たせたうえで、  
一般社会で回るように意図されている点だと思います。

一般市民の啓発というと、  
まだ病気になっていない方を対象に行う印象がありますが、  
退院した患者さんの家族や、患者さん同士を巻き込んでいき、

それをシステム化して、一般社会に落とし込んでいくアプローチ、  
という点が、非常に斬新だと感じます。

患者さんが入院したら、  
自ら「離床したほうがいいんですよ」と言ってくれる社会を創ること、  
それが当会の願いです。

様々なアプローチを使って、  
一般市民の皆さんに離床の重要性を伝えていきたいものですね。

下記文献では、  
その詳細を読むことができます。

是非、ご一読ください。

文献情報：

<https://openresearch.nihr.ac.uk/articles/5-64/v2>